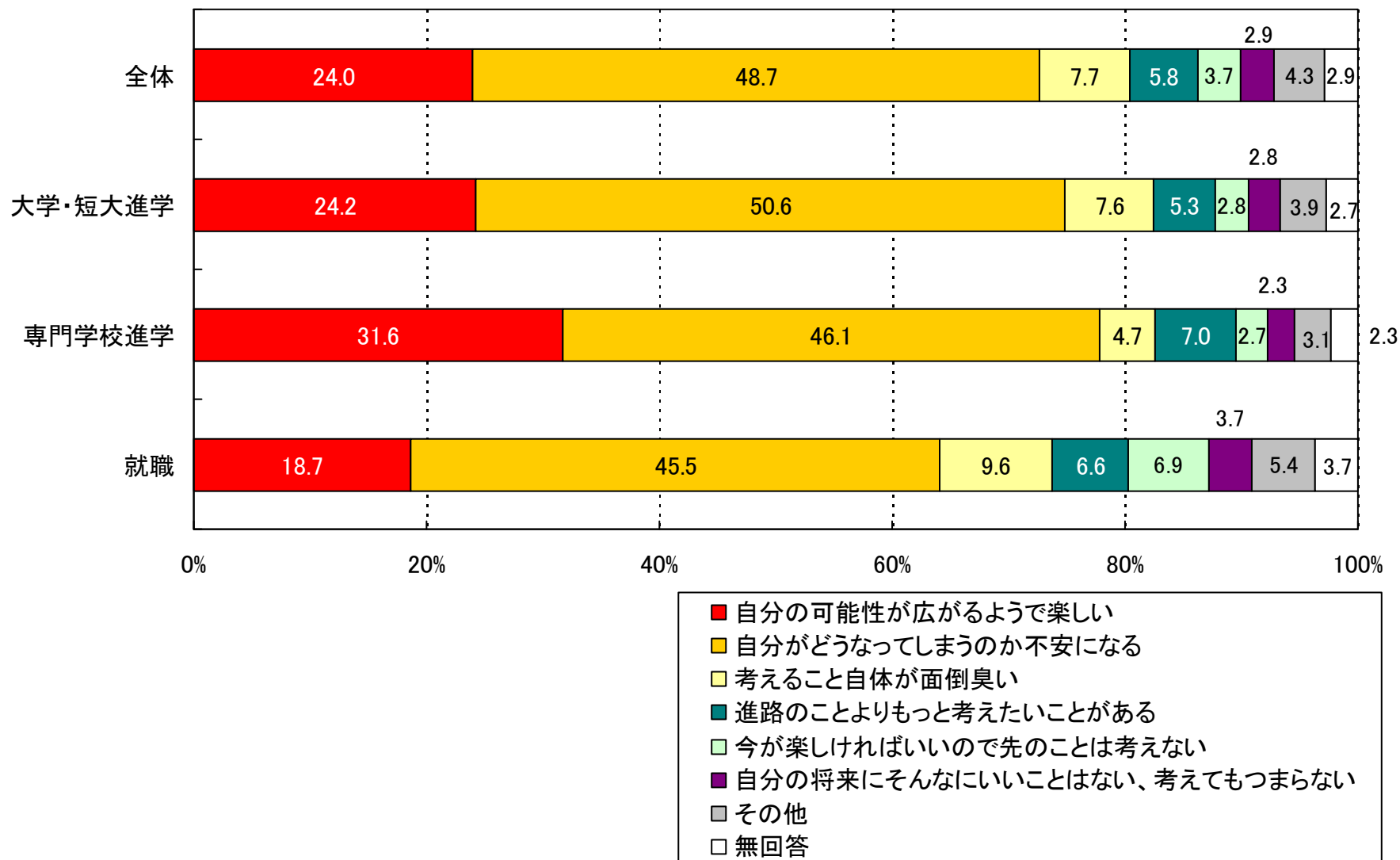


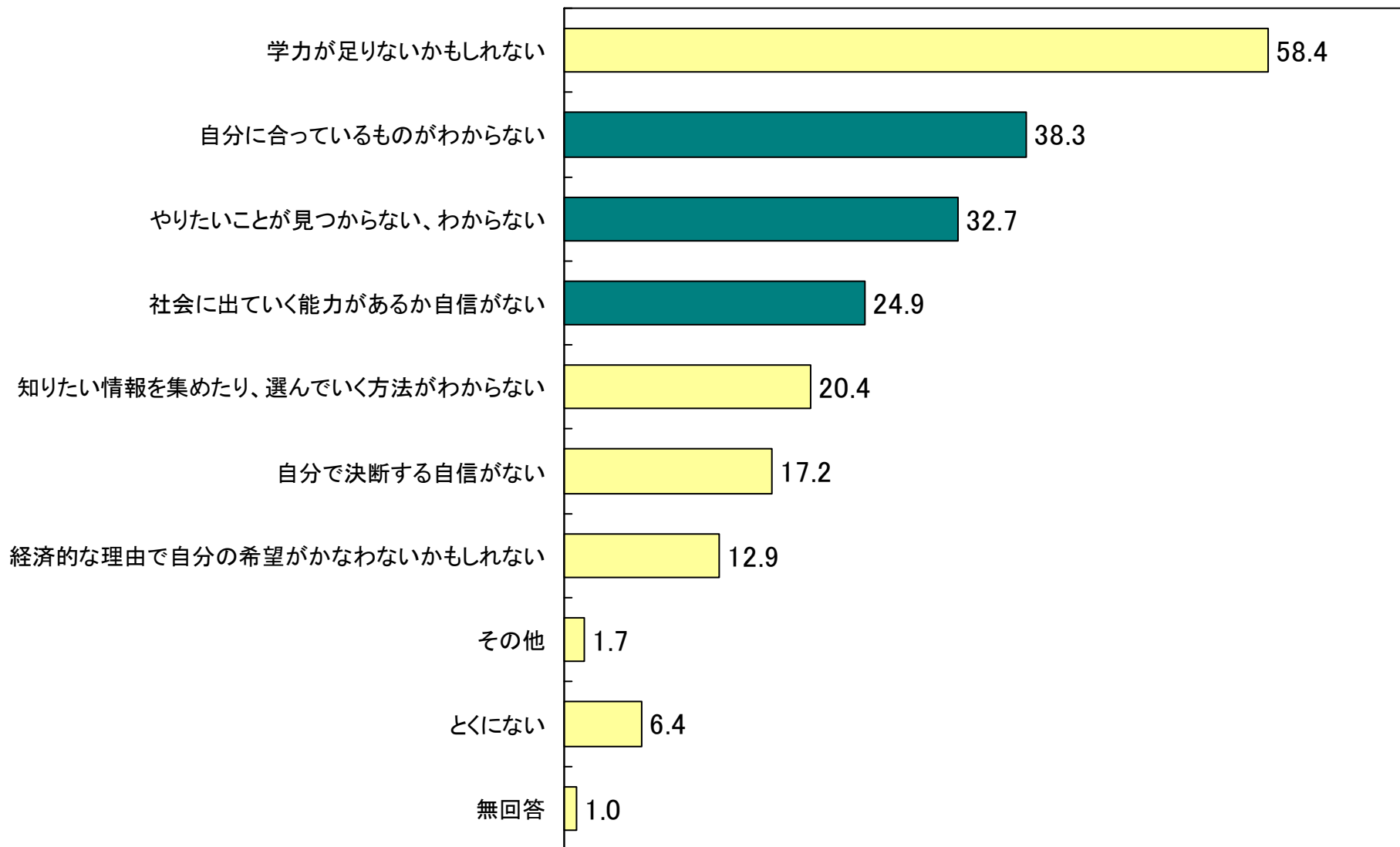
進路を考える時の高校生の気持ち

高校生に進路を考える時の気持ちを尋ねたところ、「自分がどうになってしまうのか不安になる」という者が約半数おり、「自分の可能性が広がるようで楽しい」という者(約24%)を大きく上回っている。



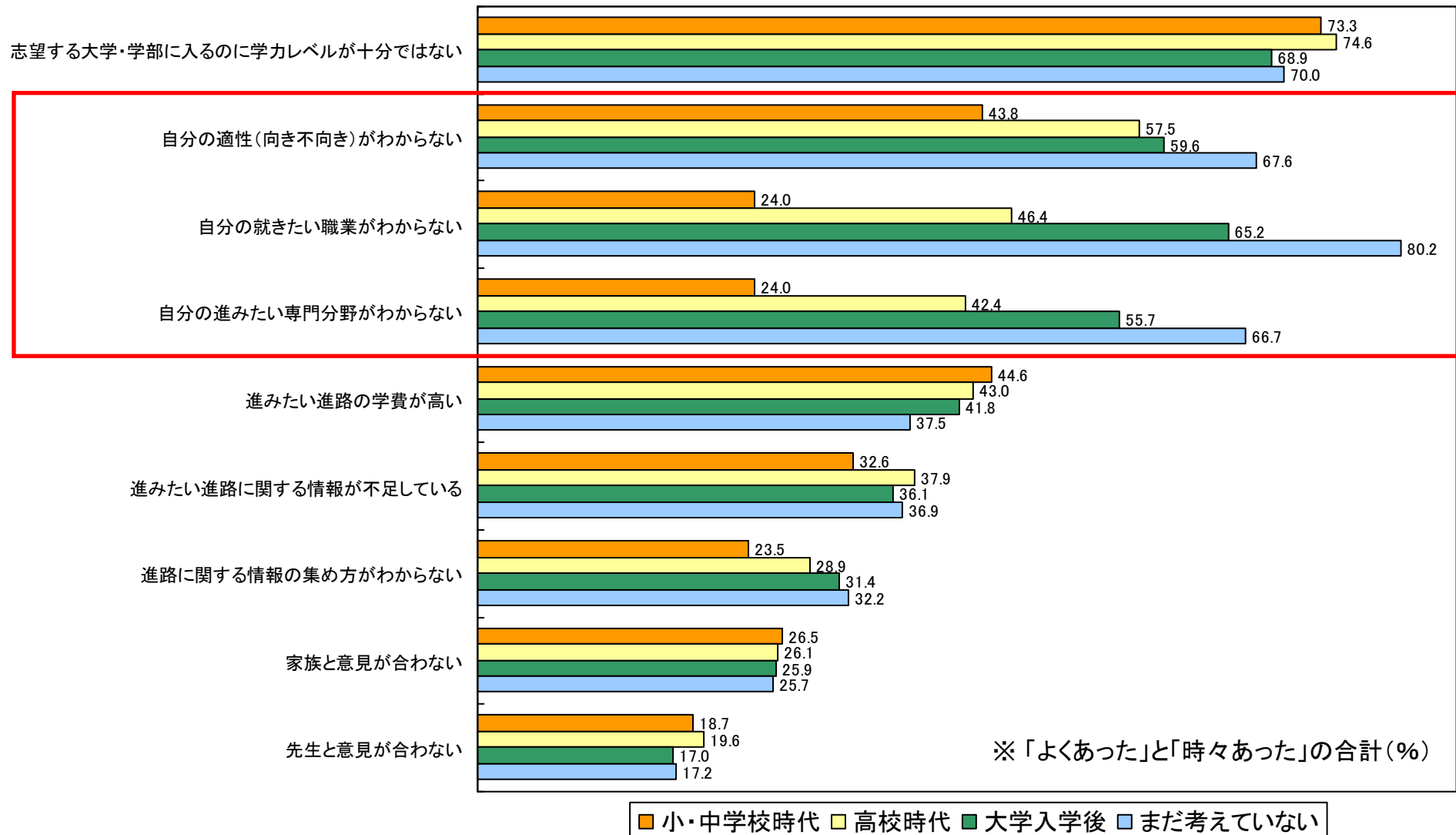
進路選択に関する高校生の気掛かり

高校生に進路選択に関する気掛かりを尋ねたところ、「自分に合っているものがわからない」「やりたいことが見つからない、わからない」「社会に出て行く能力があるか自身がない」という者が多い。



進路を選択するときの悩み（職業を意識した時期別）

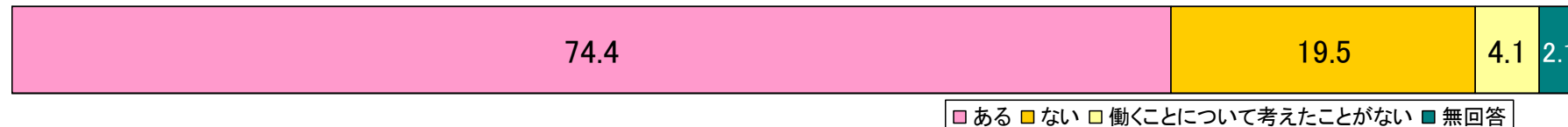
大学生に、高等学校時代に進路を選択したときの悩みを尋ねたところ、「自分の適性（向き不向き）がわからない」「就きたい職業がわからない」「進みたい専門分野がわからない」が多く存在。こうした傾向は、職業を意識した時期が遅いほど顕著に出ている。



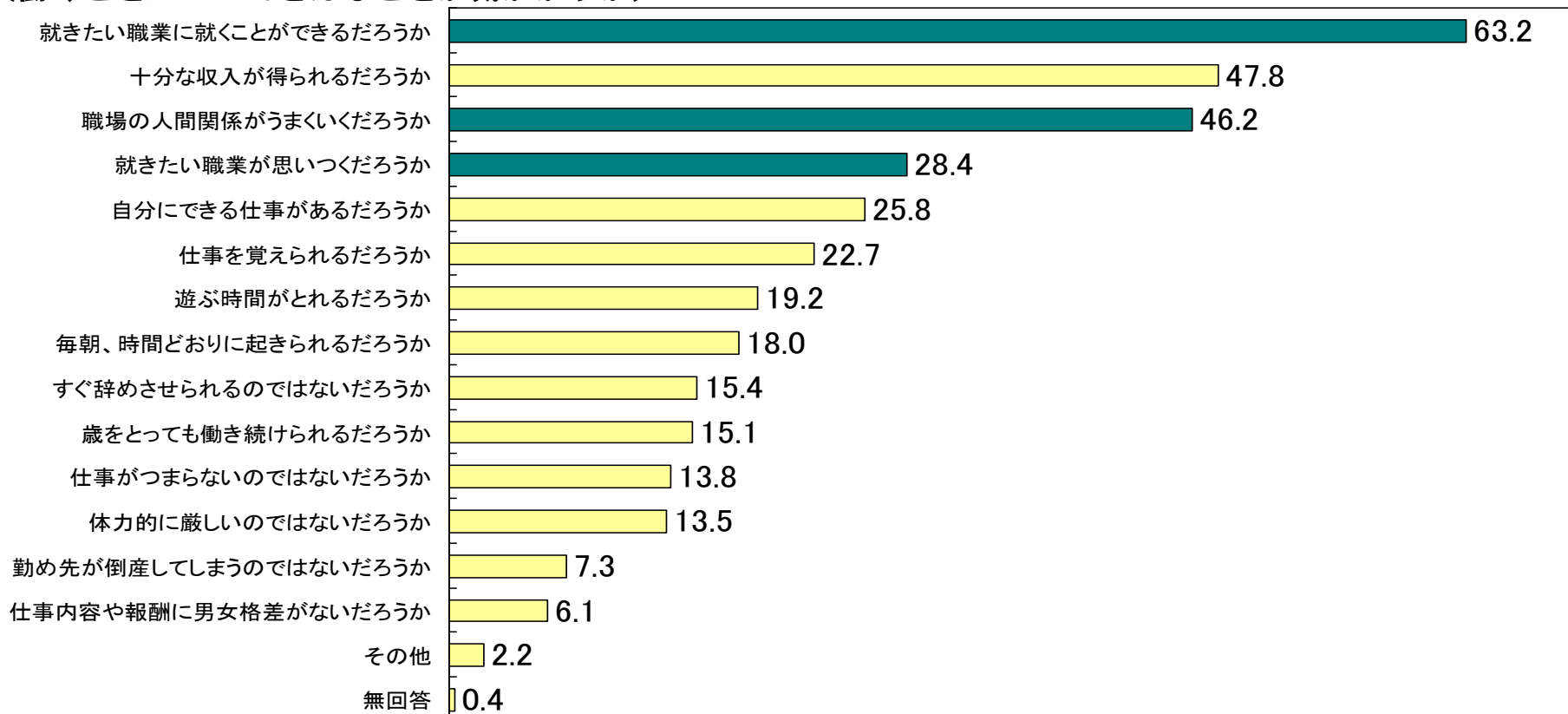
働くことに関する高校生の気掛かり

高校生に、将来働くことについて気掛かりなことがあるかを尋ねたところ、約74%が「ある」と回答。そのうち、「就きたい職業に就くことができるだろうか」「職場の人間関係がうまくいだろうか」など、就きたい職業にどのようにすれば就けるのかという道筋が分からないと考えている者や職場の人間関係に不安を感じている者が多い一方、「就きたい職業が思いつくだろうか」という者も約28%いる。

＜将来働くことについて気がかりなことがあるか＞

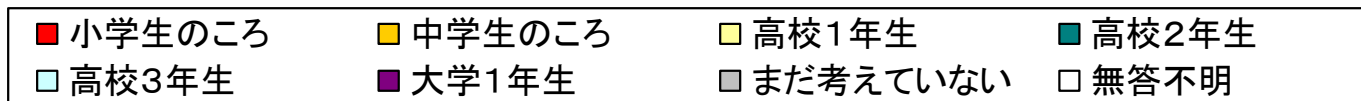
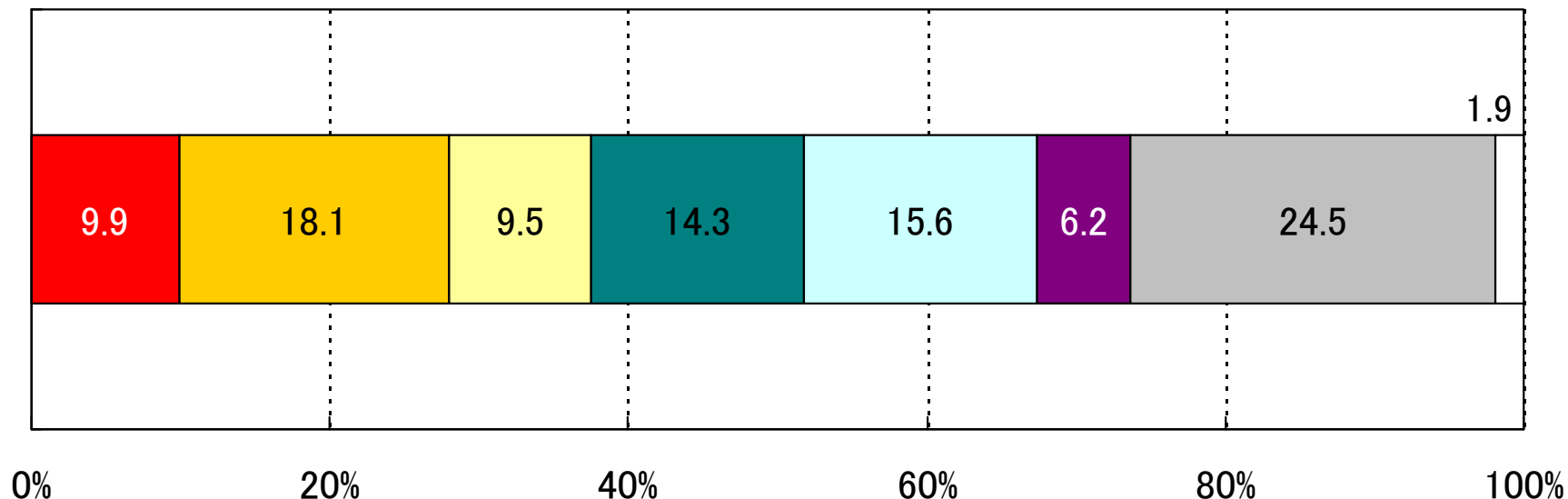


＜働くことについてどんなことが気がかりか＞（気がかりなことがあると回答した者・5つまで回答）



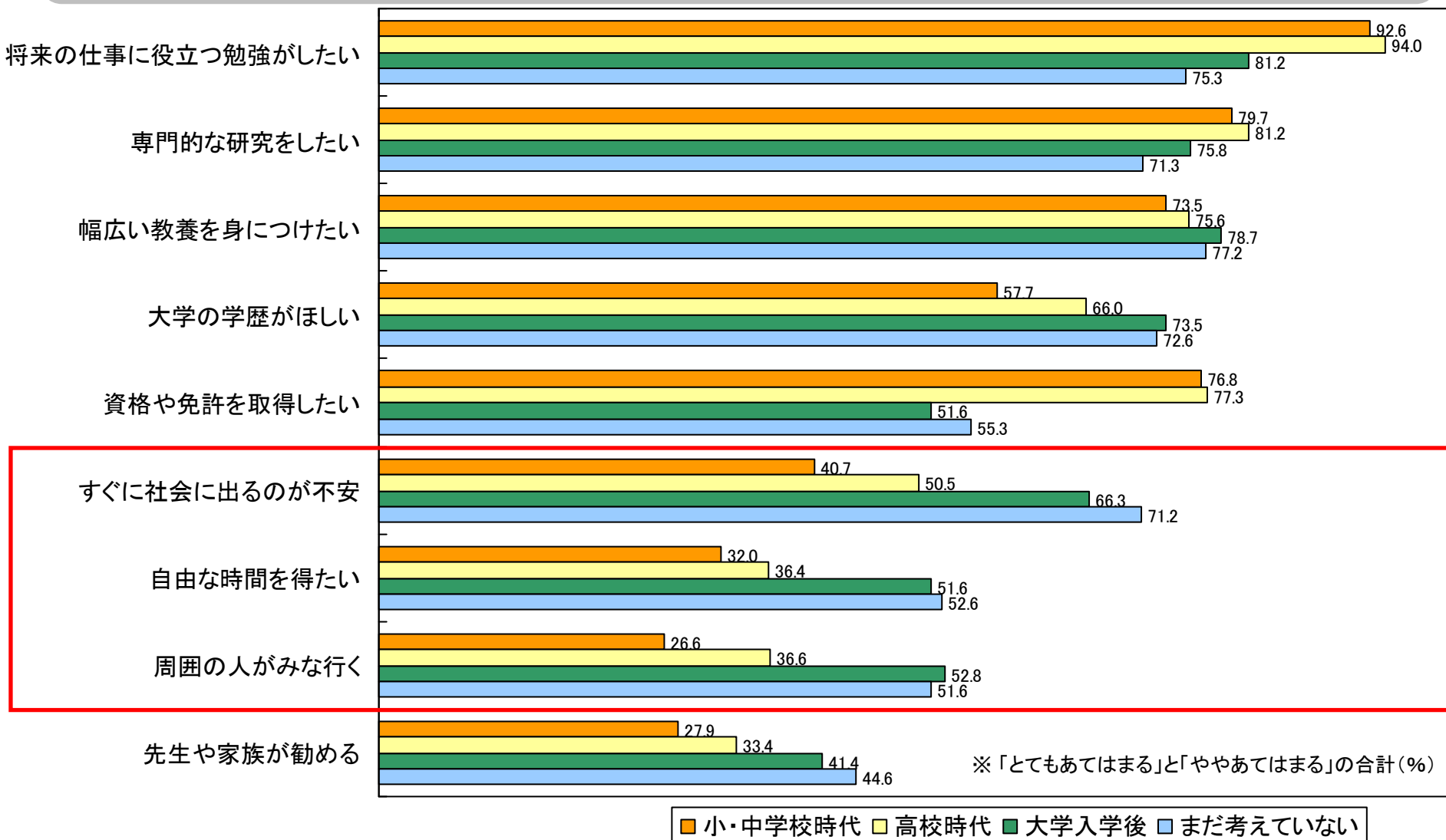
大学1年生が職業を意識した時期

大学1年生に、職業を意識した時期を聞いたところ、約31%が高等学校卒業以前に職業を意識したことがない(「まだ考えていない」または「大学1年生」と回答)。



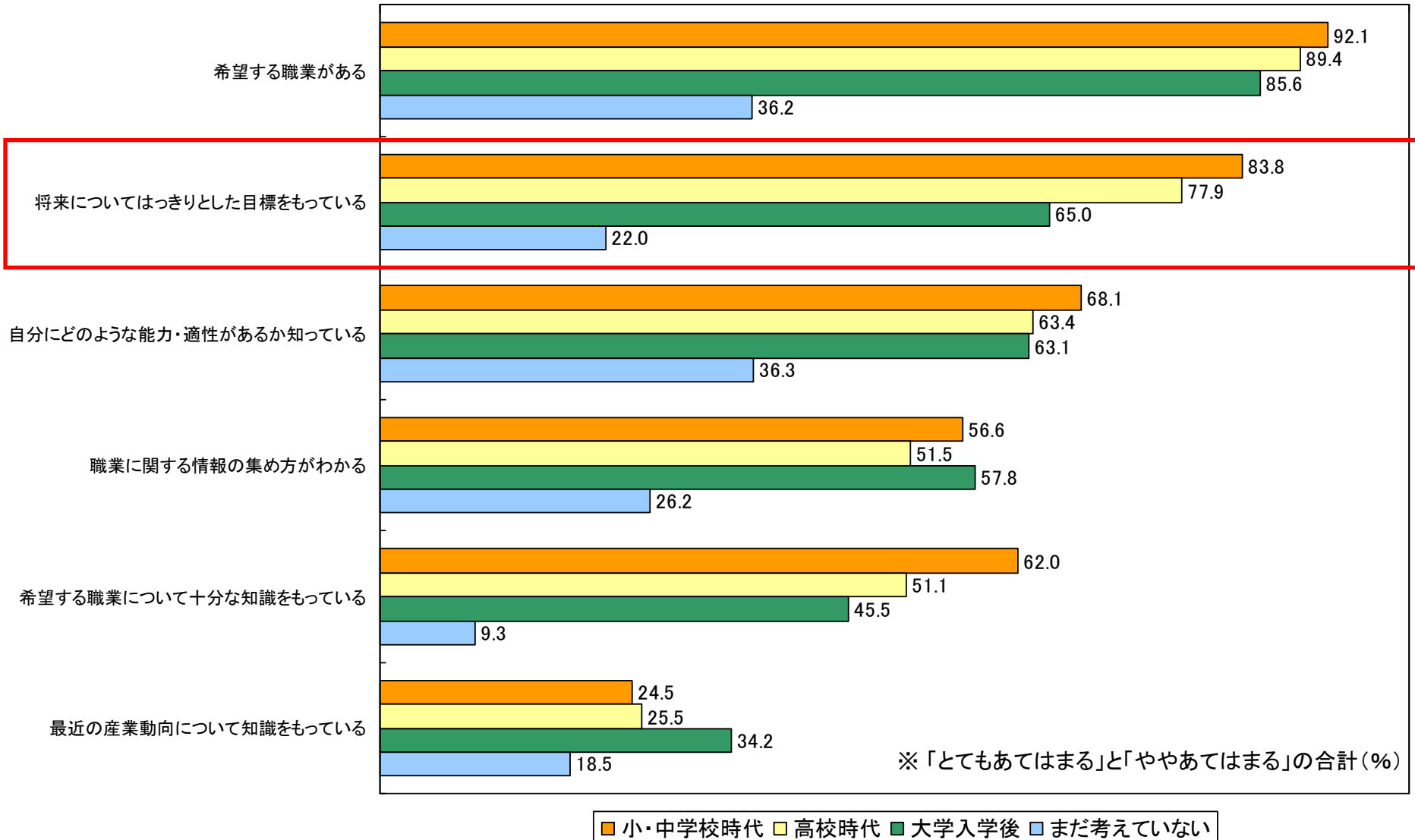
大学への進学理由（職業を意識した時期別）

大学生に、大学への進学理由を聞いたところ、「すぐに社会に出るのが不安だから」「自由な時間を得たいから」「周囲の人がみな行くから」と消極的に考えている者が、職業を意識した時期が遅いほど顕著という傾向。



大学生の職業に関する意識（職業を意識した時期別）

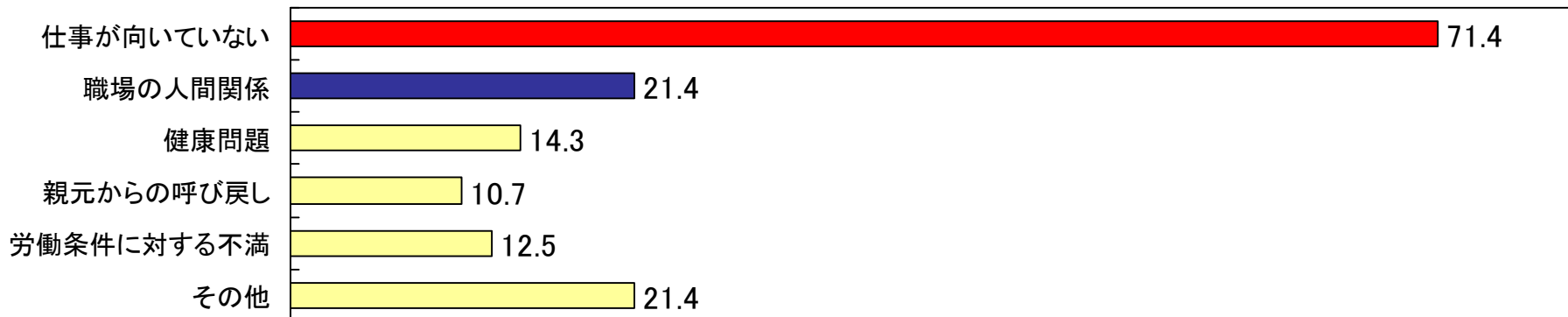
大学生に職業に関する意識を聞いたところ、高等学校卒業以前に職業を意識した者が、大学入学後に意識した者やまだ考えていない者に比べ、「将来についてはっきりとした目標をもっている」者の割合が高い。



職業を離職した理由

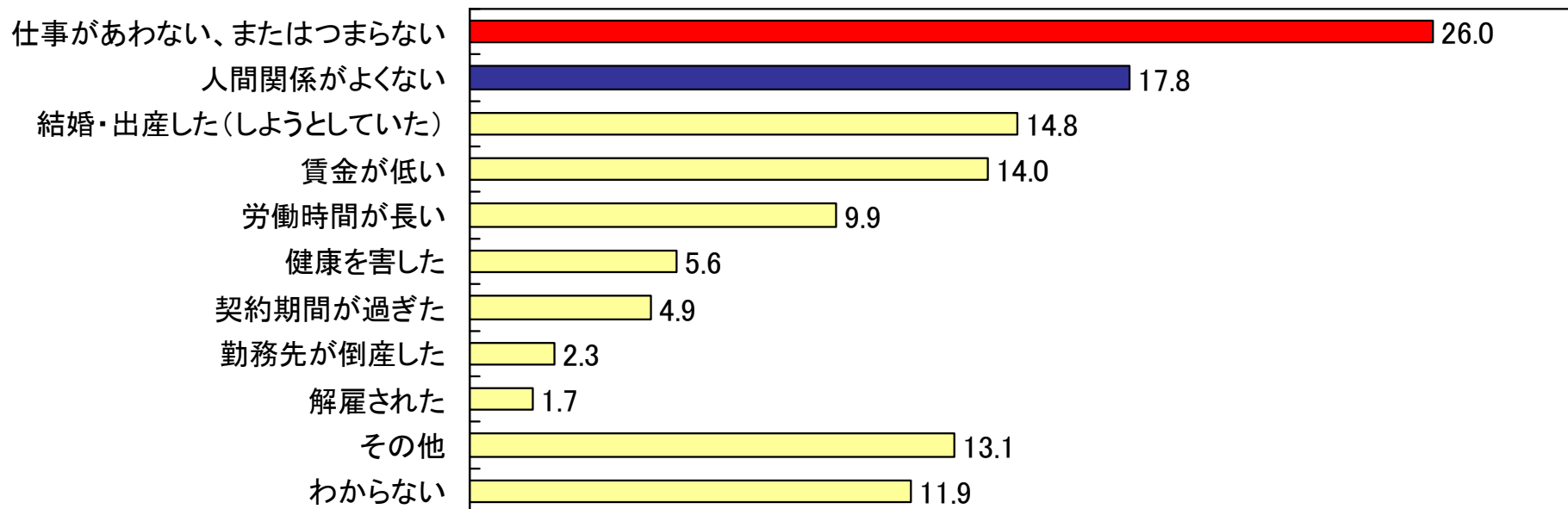
職業を離職した理由としては、「仕事が向いていない」「職場の人間関係」が多く挙げられている。

<新規高卒就職者の離職理由>



(出典) 東京経営者協会「平成21年3月新規高校卒業予定者の採用に関するアンケート調査」

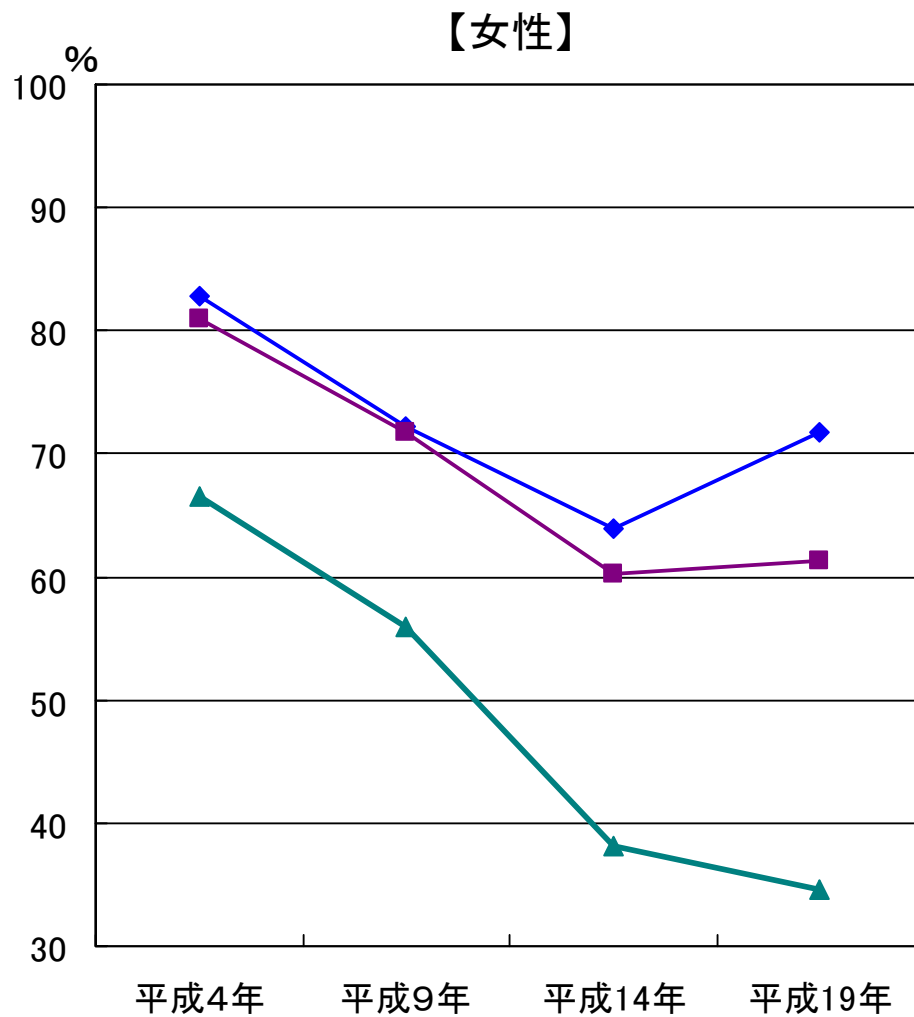
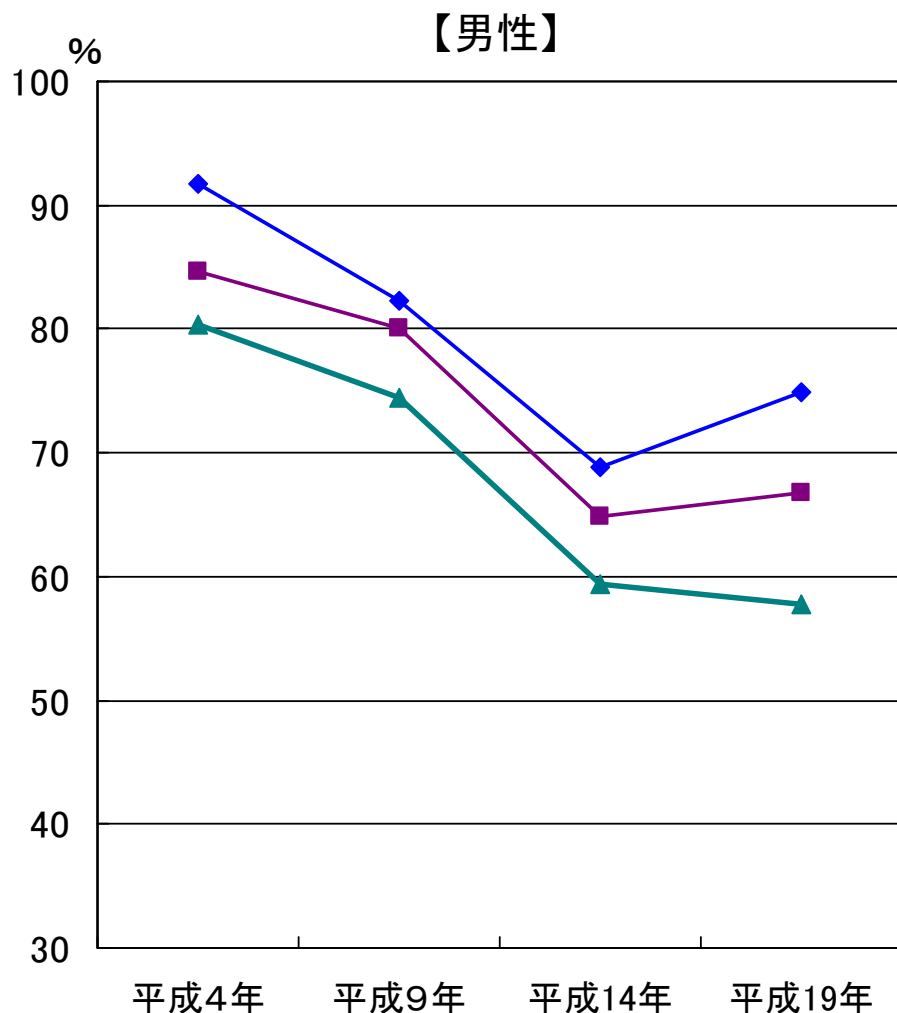
【参考】初めて就いた職業を離職した理由



(出典) 内閣府「青少年の社会的自立に関する意識調査」(平成16年度) 8

20～24歳(在学者を除く)における正規雇用者の比率の推移

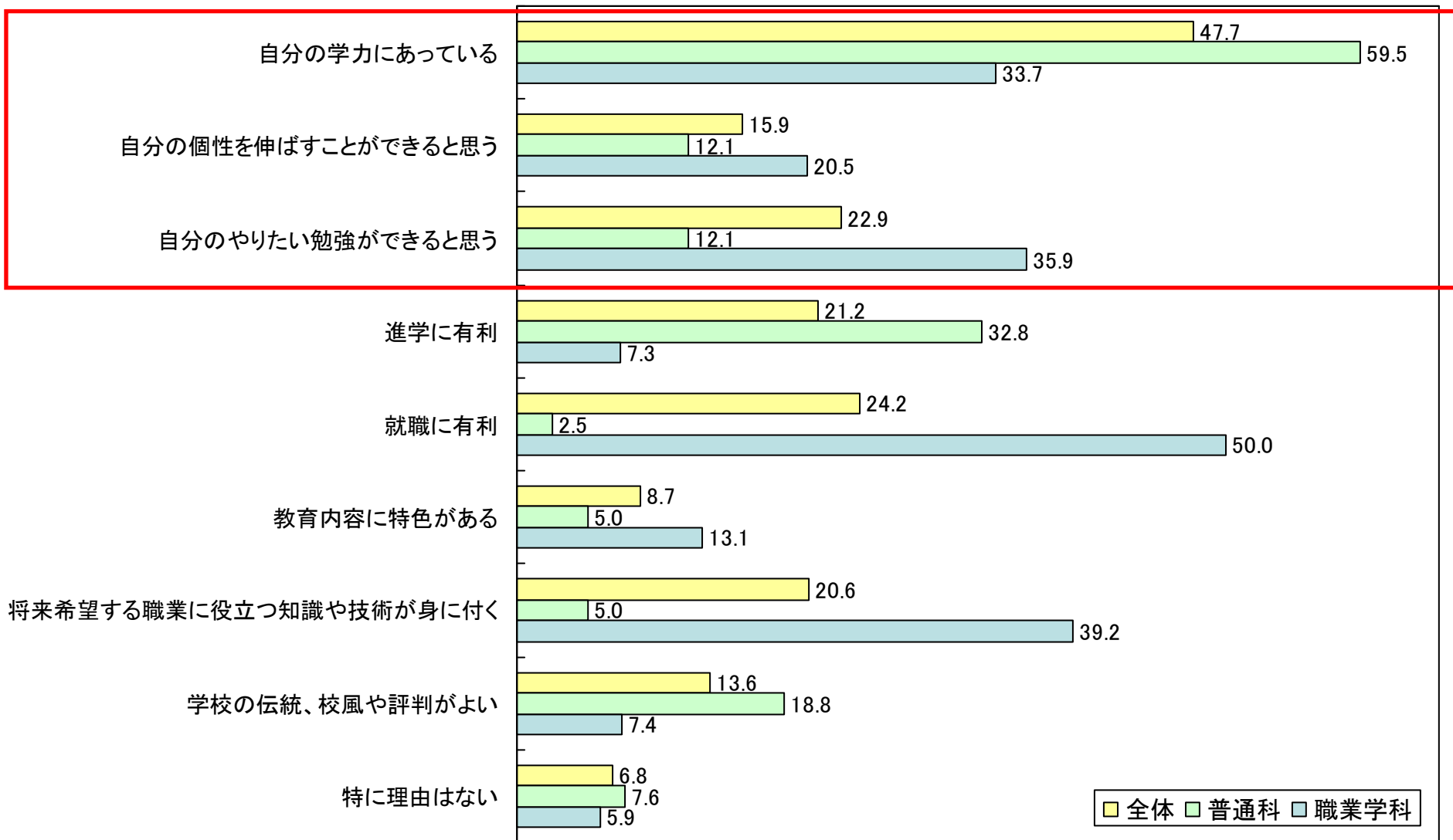
20～24歳(在学者を除く)における正規雇用者の比率の推移を見ると、大学卒や短期大学・高等専門学校・専門学校卒と比べ、高等学校卒の比率は上がっていない。



◆ 大卒 ■ 短大・高専・専門卒 ▲ 高卒

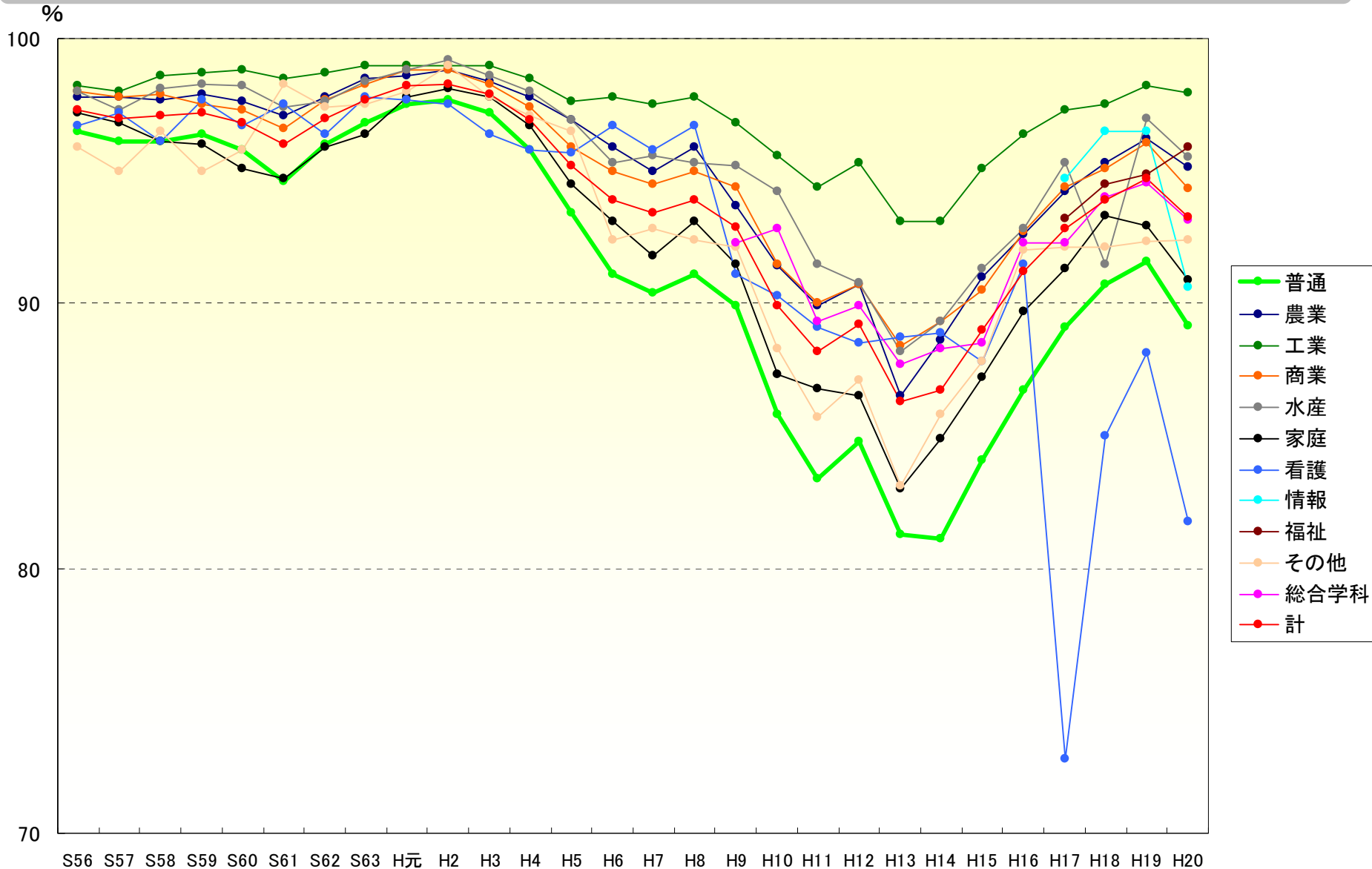
高等学校に入学した動機（学科別）

高校生に入学動機を聞いたところ、普通科の場合、「自分の学力にあっているから」が約60%に対し、「自分の個性を伸ばすことができると思うから」が約12%、「自分のやりたい勉強ができると思うから」が約12%と、自分の個性ややりたいことと結び付いていないことが伺われる。このことは、職業学科と比べても顕著。



新規高等学校卒業者の学科別就職状況の推移（各年度3月末時点）

新規高卒者の就職状況を見ると、普通科は他の学科と比べて厳しい状況に置かれているのが最近の傾向。



高等学校を中途退学する理由

事由	人数(人)	構成比(%)
学業不振	4,848	7.3
学校生活・学業不適応	25,896	39.1
(もともと高校生活に熱意がない)	(9,850)	(14.9)
(授業に興味がない)	(4,152)	(6.3)
(人間関係がうまく保てない)	(5,060)	(7.6)
(学校の雰囲気が合わない)	(3,708)	(5.6)
(その他)	(3,126)	(4.7)
進路変更	21,813	32.9
病気・けが・死亡	2,748	4.1
経済的理由	2,207	3.3
家庭の事情	2,958	4.5
問題行動等	3,349	5.1
その他の理由	2,407	3.6
計	66,226	100.0

(注) 中途退学者1人につき、主たる理由を1つ選択

(出典) 文部科学省「平成20年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

公立高等学校におけるインターンシップの実施状況①

1 インターンシップ実施状況（平成20年度調査時点）※（ ）は19年度の数値

(1) 学校別実施状況（予定含む）

公立高等学校数	実施学校数	実施率
4,445校 (4,540校)	3,071校 (2,931校)	69.1% (64.6%)

(2) インターンシップの教育課程等への位置付けの状況等（複数回答可）

教育課程等への位置付け		参加形態	
		原則として当該学年の 全員が参加	選択・希望者等当該学年の 一部の生徒が参加
特別活動での実施	358校 (338校)	224校 (205校)	134校 (134校)
	11.7% (11.5%)	62.6% (60.7%)	37.4% (39.6%)
総合的な学習の時間で実施	784校 (765校)	595校 (583校)	189校 (182校)
	25.5% (26.1%)	75.9% (76.2%)	24.1% (23.8%)
現場実習等職業に関する 教科・科目の中で実施	691校 (627校)	418校 (410校)	273校 (247校)
	22.5% (21.4%)	60.5% (65.4%)	39.5% (39.4%)
「課題研究」の中で実施	232校 (224校)	110校 (117校)	122校 (109校)
	7.6% (7.6%)	47.4% (52.2%)	52.6% (48.7%)
学校設定教科・科目で実施	294校 (274校)	110校 (128校)	184校 (149校)
	9.6% (9.3%)	37.4% (46.7%)	62.6% (54.4%)
「学校外における学修」 として実施	349校 (310校)	53校 (49校)	296校 (264校)
	11.4% (10.6%)	15.2% (15.8%)	84.8% (85.2%)
教育課程には位置付けず に実施	1,428校 (1,342校)	254校 (215校)	1,174校 (1,114校)
	46.5% (45.2%)	17.8% (16.2%)	82.2% (84.1%)

※ 2つ以上に該当する場合は、その全てをカウント。

※ 実際に事業所等で行う体験活動を対象とし、事前・事後指導等は含めない。

公立高等学校におけるインターンシップの実施状況②

2 学科別状況（全日制・定時制）

※ 学校数については、全日制・定時制の両方をそれぞれカウントした数になっている。

(1)平成20年度 学科別実施率(%) (公立)

農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他の職業に関する学科	小計	普通科	その他の学科	総合学科	全体
90.4	79.1	79.0	95.5	85.5	97.0	72.2	85.5	62.5	82.5	57.3	34.4	83.9	65.5

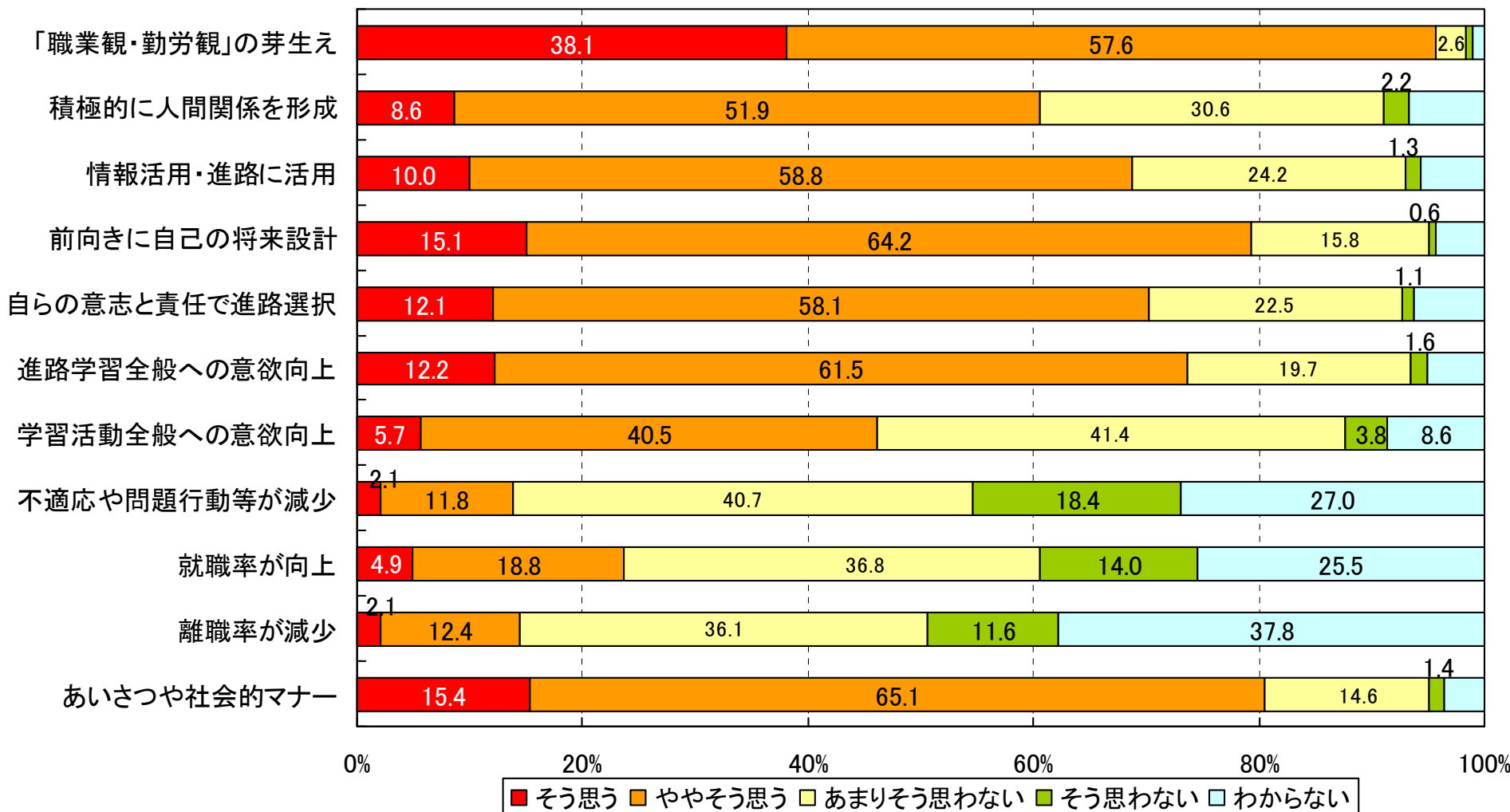
(2)平成20年度 実施学科数及び体験生徒数 (公立)

	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他の職業に関する学科	小計	普通科	その他の学科	総合学科	全体
実施学科数 <単位認定 学科数>	322 <157>	496 <205>	473 <159>	42 <12>	177 <64>	32 <30>	13 <3>	47 <37>	10 <2>	1,612 <669>	1,735 <415>	155 <20>	251 <97>	3,753 <1,201>
体験した 生徒数	21,786	48,829	42,915	2,248	9,069	2,667	507	3,610	974	132,605	97,948	3,438	24,628	258,619
在学中に 1回でも 体験した 3・4年生数 (割合※)	18,630 (67.7)	40,624 (53.5)	39,516 (61.5)	1,948 (67.0)	6,724 (71.3)	1,202 (99.6)	405 (51.6)	1,726 (96.5)	558 (59.9)	111,333 (60.2)	75,240 (14.7)	3,106 (13.2)	18,664 (41.4)	208,343 (27.2)

※ ()内はその学科の3・4年生全体に占める割合(%)

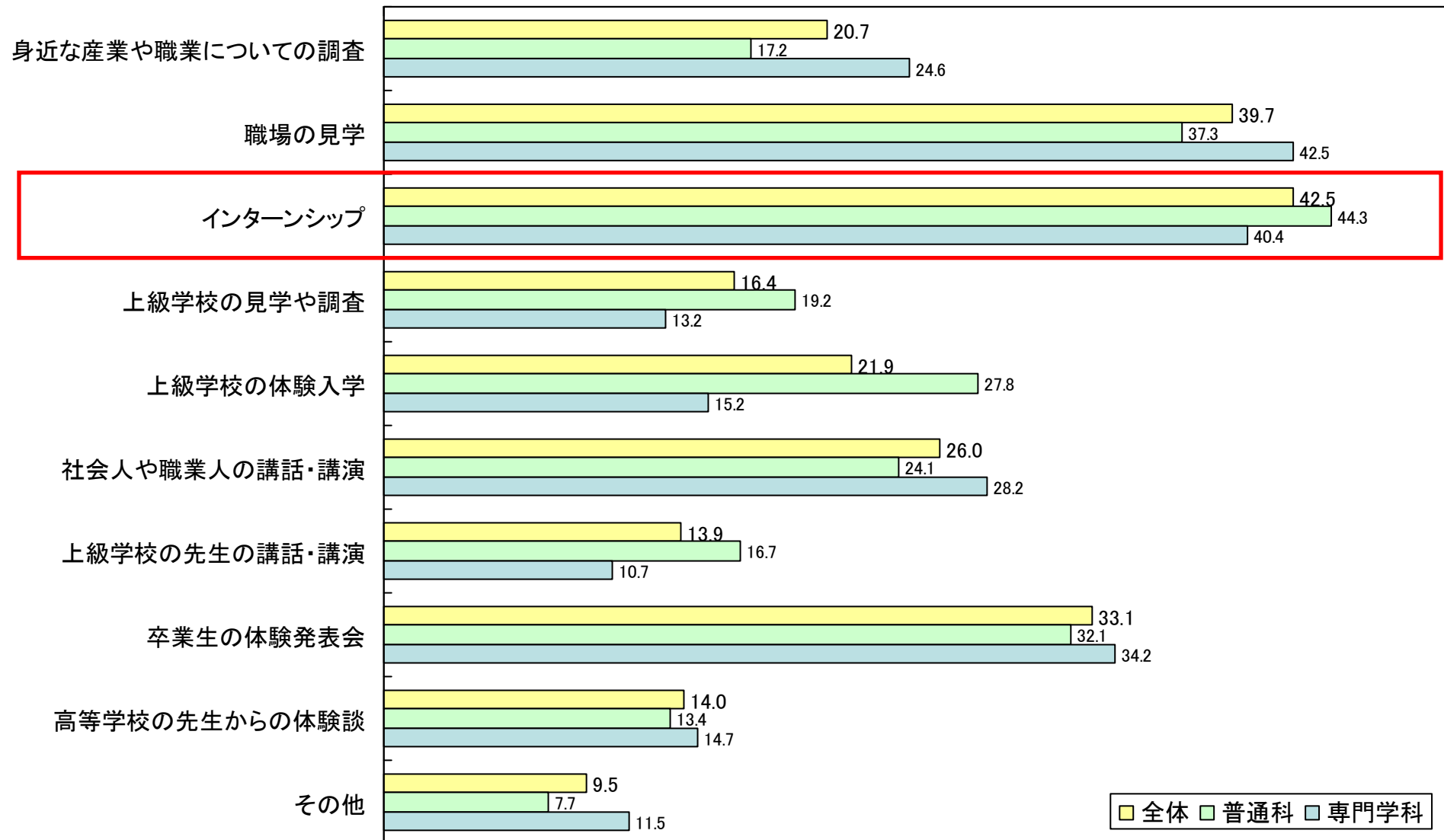
高等学校における就業体験活動の効果

高等学校における就業体験活動の効果としては、「勤労観・職業観の芽生えによる職業や『働くこと』への関心の高まり」「自己の将来設計」「自らの意志と責任による進路選択」「積極的な人間関係の形成」などが上位に挙げられている。



高等学校在学時に実施してほしい体験活動（学科別）

高等学校の卒業生に、高校生の時に、自分の将来の生き方や進路について考えるために実施してほしい体験活動について聞いたところ、「インターンシップ（就業体験活動）」と回答した者が約43%。



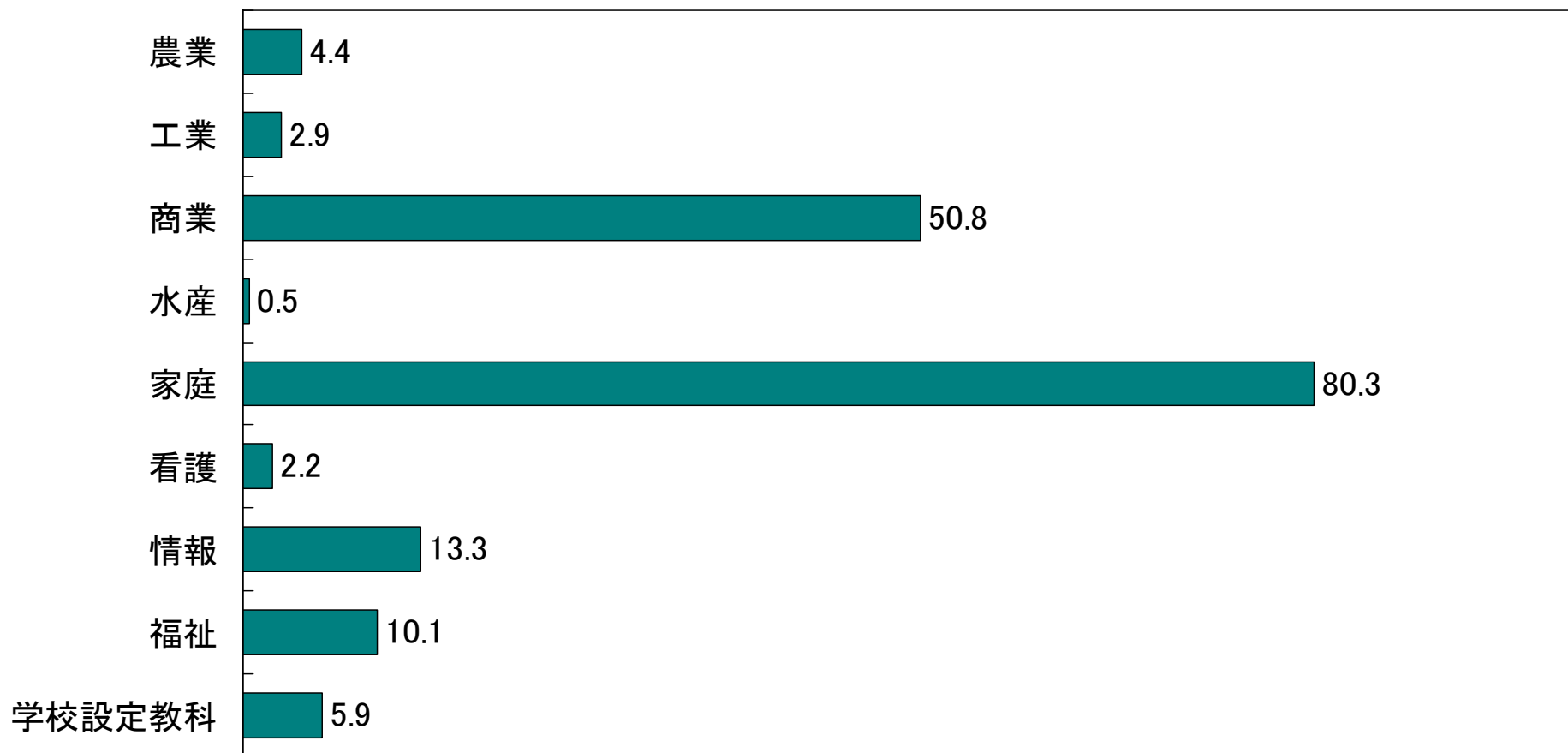
公立高等学校の普通科における職業教科の開設状況

公立高等学校の普通科のうち、約65%が家庭、商業といった教科を中心に職業教科を開設している。

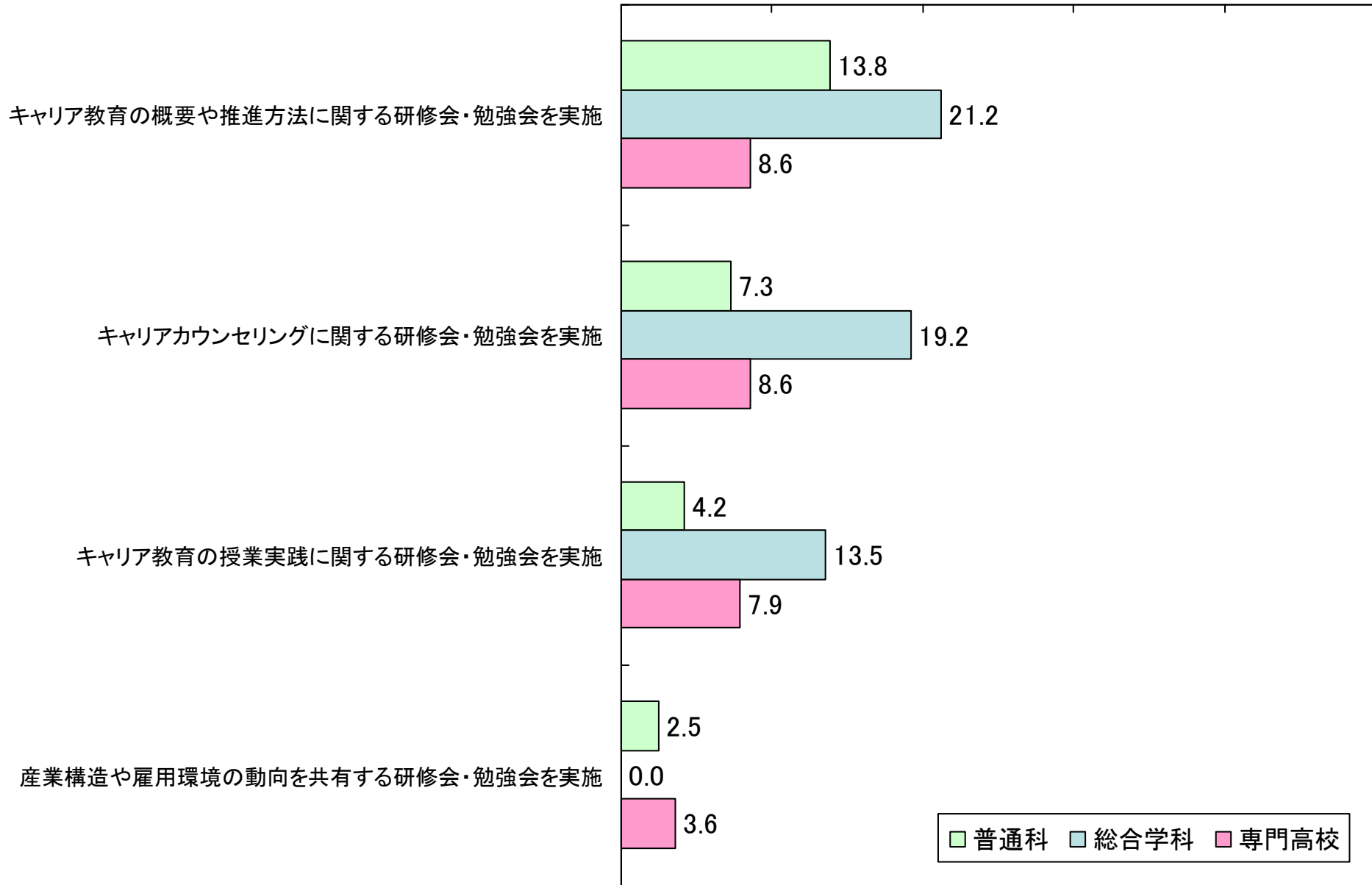
<職業教科を開設しているか>



<開設している場合、開設している教科は何か>



高等学校におけるキャリア教育の研修会・勉強会の実施状況



大学における専門高校・総合学科卒業生入試の実施状況

I. 総括表

区分	募集人員 A	入学志願者数 B	志願倍率 B/A	受験者数	合格者数	入学者数 C	過△欠員 C-A
国立大学 [82大学377学部]	(96,186人) 95,868人	(413,870人) 411,476人	(4.3倍) 4.3倍	(312,703人) 310,896人	(111,308人) 109,958人	(101,306人) 101,218人	(5,120) 5,350
公立大学 [72大学165学部]	(25,008人) 25,257人	(135,143人) 137,463人	(5.4倍) 5.4倍	(102,600人) 100,547人	(34,469人) 34,164人	(26,613人) 27,063人	(1,605) 1,806
小計	(121,194人) 121,125人	(549,013人) 548,939人	(4.5倍) 4.5倍	(415,303人) 411,443人	(145,777人) 144,122人	(127,919人) 128,281人	(6,725) 7,156
私立大学 [567大学1542学部]	(441,603人) 444,785人	(3,021,217人) 3,058,646人	(6.8倍) 6.9倍	(2,905,235人) 2,935,606人	(1,070,248人) 1,047,092人	(476,823人) 468,067人	(35,220) 23,282
合計 [721大学2084学部]	(562,797人) 565,910人	(3,570,230人) 3,607,585人	(6.3倍) 6.4倍	(3,320,538人) 3,347,049人	(1,216,025人) 1,191,214人	(604,742人) 596,348人	(41,945) 30,438

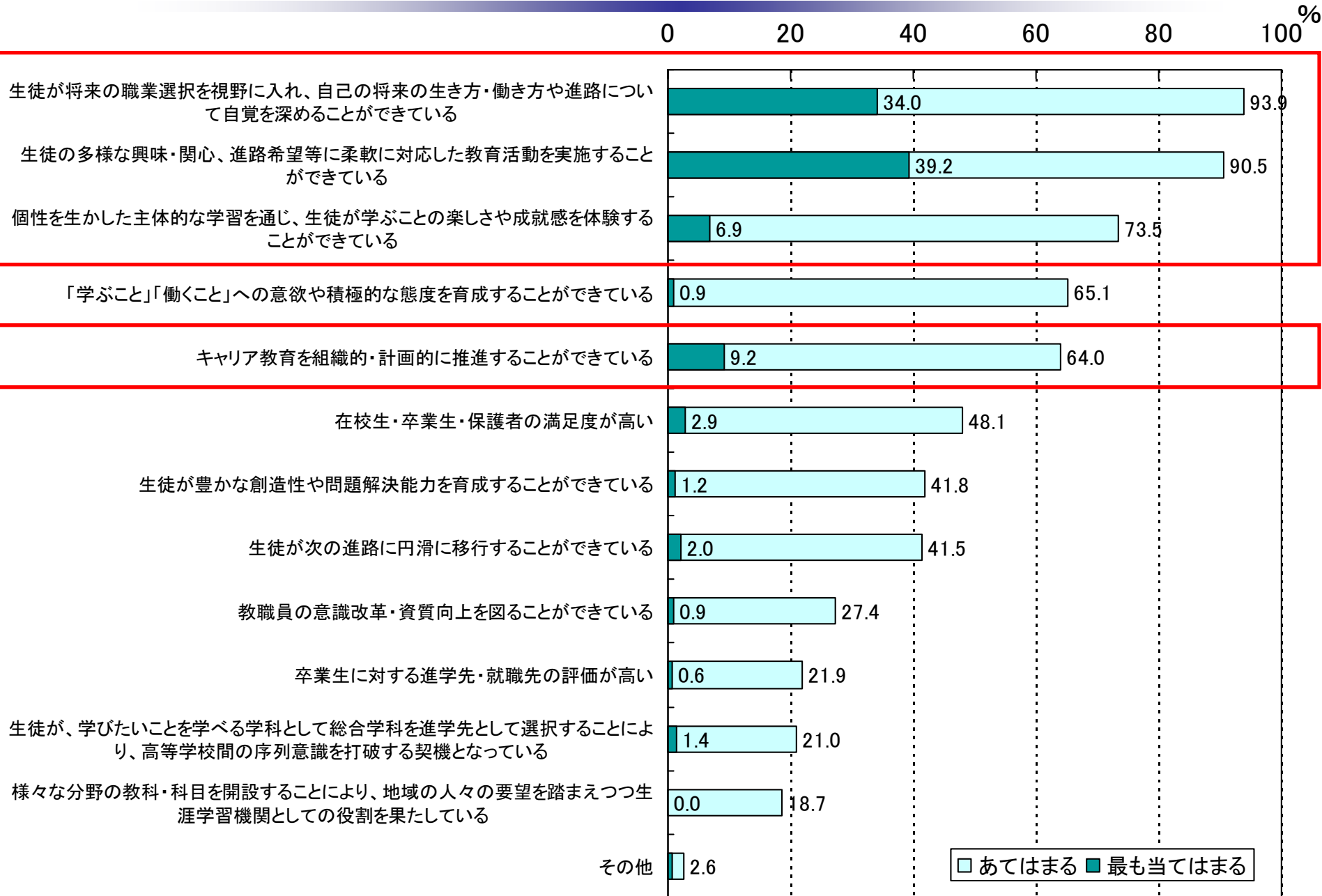
()書きは前年度の数値を示す

II. 専門高校・総合学科卒業生入試

区分	平成20年度					平成19年度				
	実施大学・学部数		入学志願者数	合格者数	入学者数	実施大学・学部数		入学志願者数	合格者数	入学者数
国立大学	7大学	8学部	99人	34人	34人	9大学	11学部	166人	55人	53人
公立大学	1大学	3学部	14人	8人	8人	1大学	3学部	19人	6人	6人
小計	8大学	11学部	113人	42人	42人	10大学	14学部	185人	61人	59人
私立大学	34大学	62学部	785人	724人	666人	23大学	37学部	349人	293人	234人
合計	42大学	73学部	898人	766人	708人	33大学	51学部	534人	354人	293人

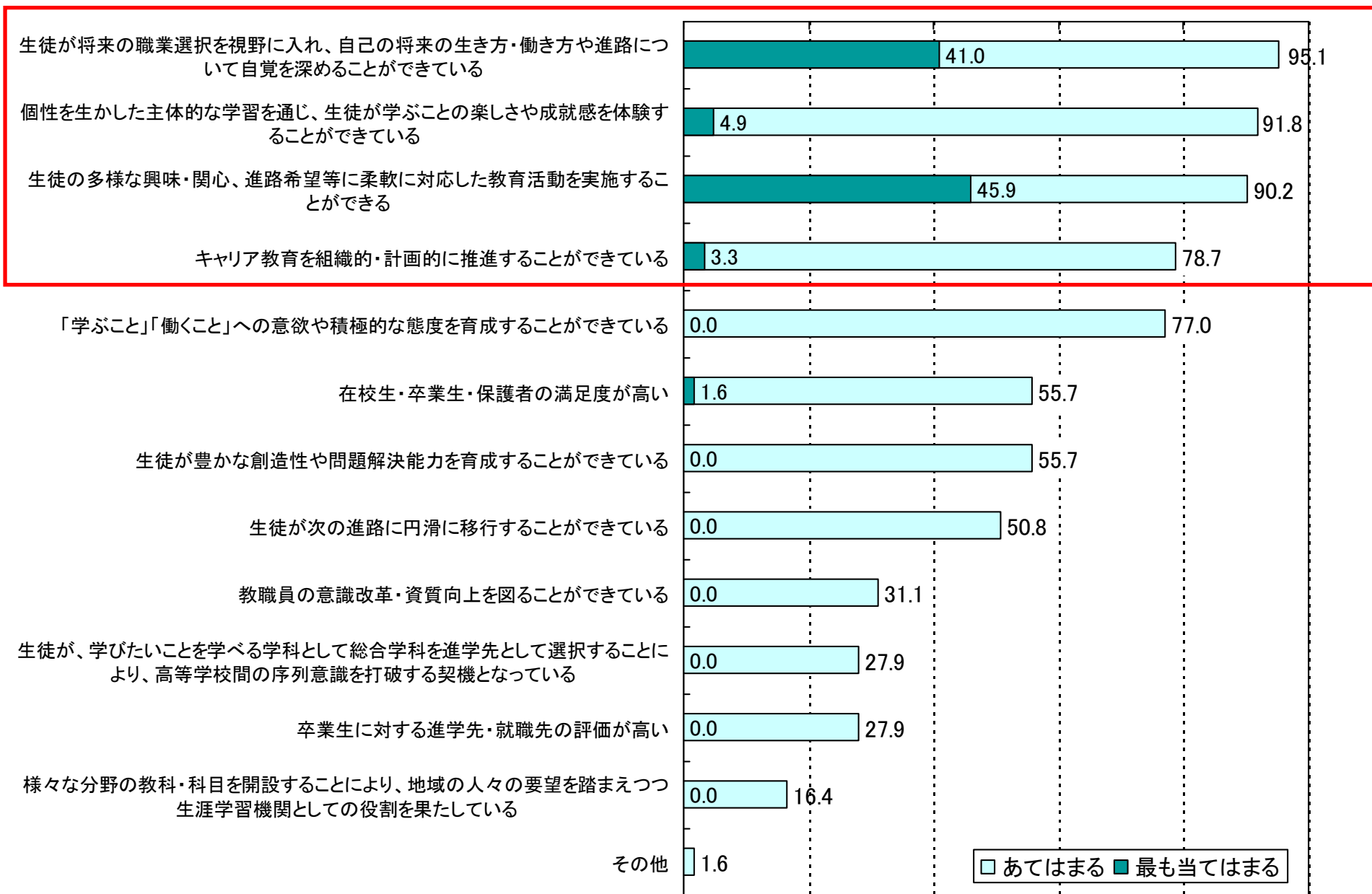
(出典)文部科学省「平成20年度 国公立大学入学者選抜実施状況」

総合学科を導入したことによる成果（学校回答）



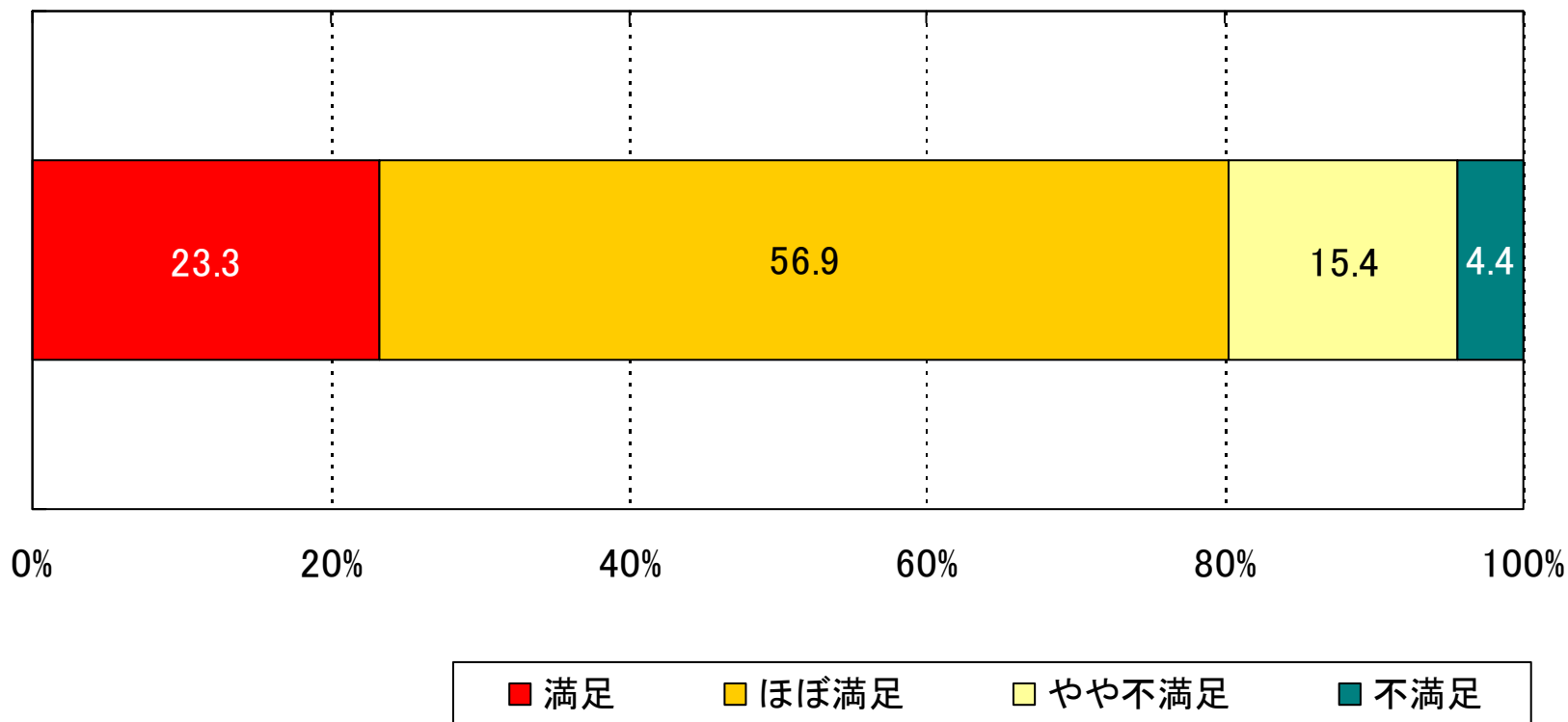
総合学科を導入したことによる成果（教育委員会回答）

0 20 40 60 80 100 %

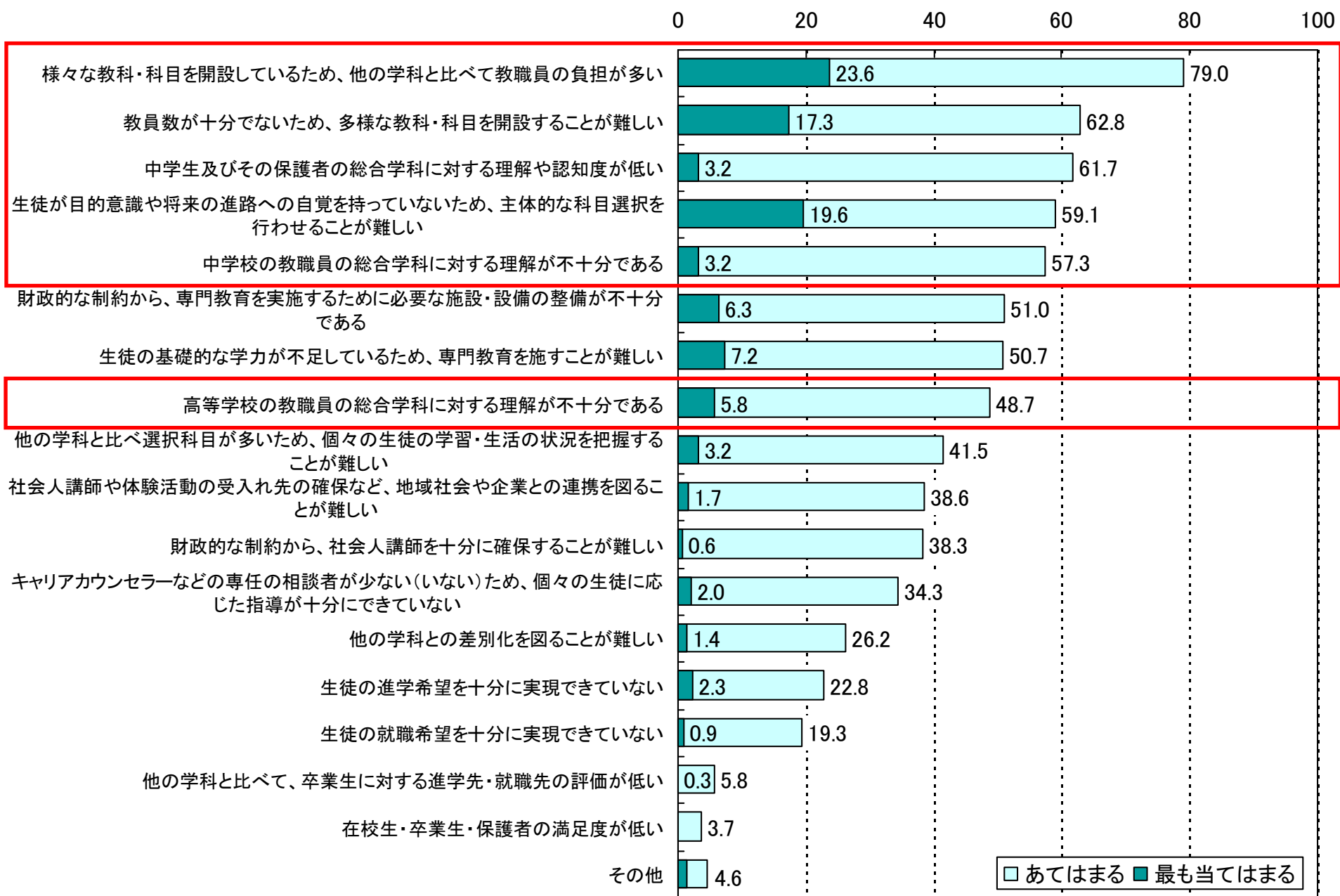


総合学科で学ぶことへの満足度

総合学科に在籍する生徒に、総合学科で学ぶことへの満足度を尋ねたところ、「満足」「ほぼ満足」と回答した者が約80%を占めている。

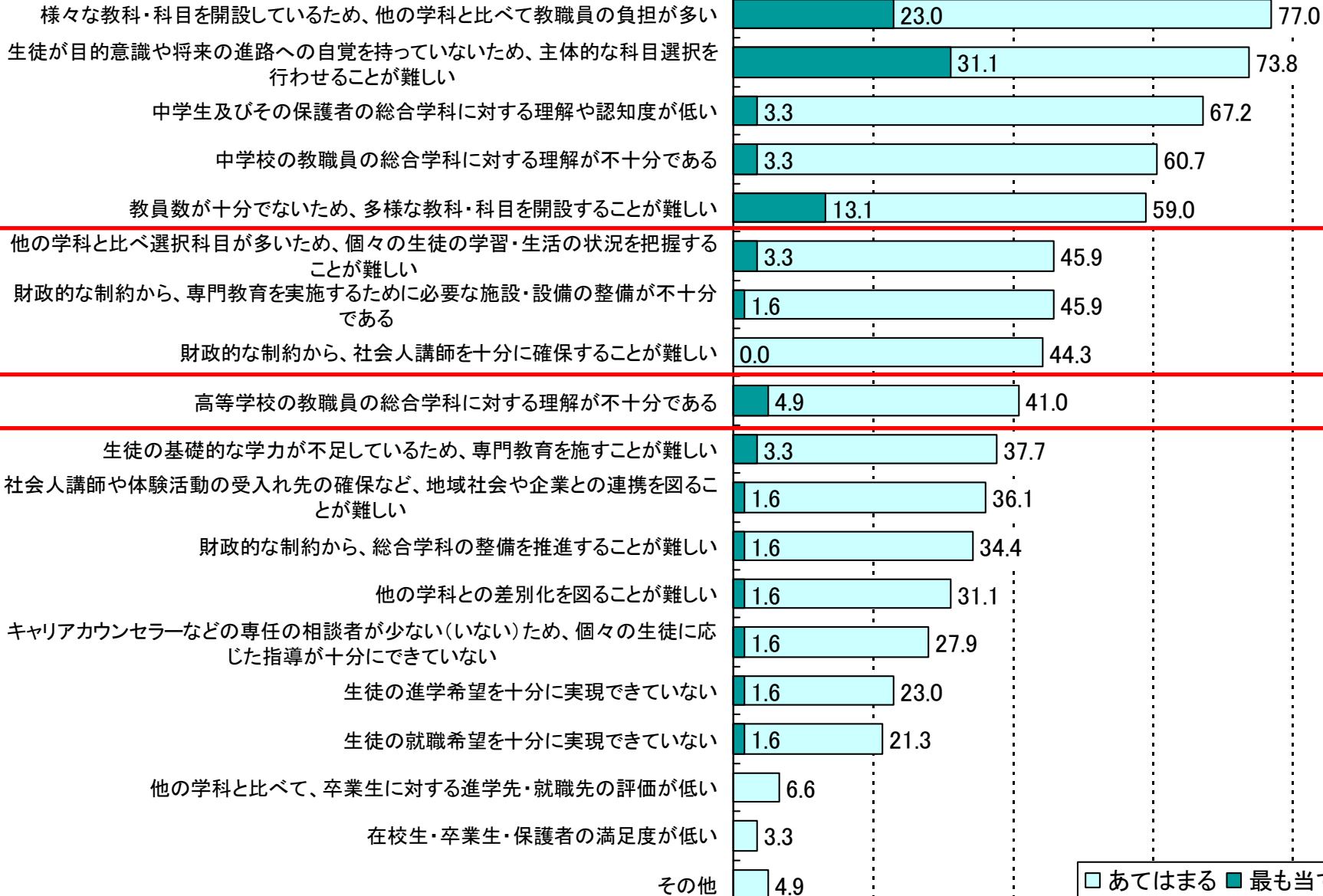


総合学科の課題（学校回答）



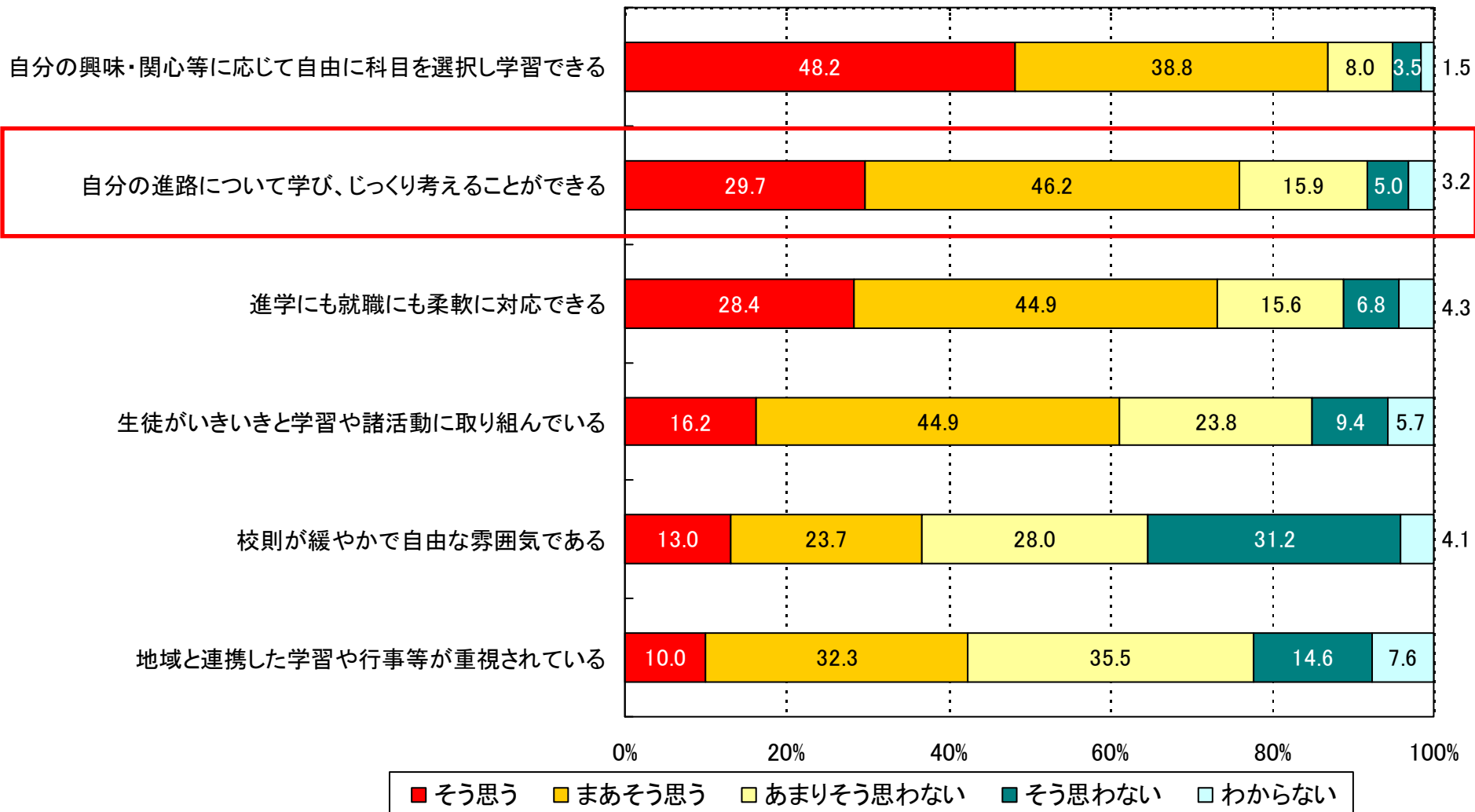
総合学科の課題（教育委員会回答）

0 20 40 60 80 100



総合学科の特色についての生徒の認識

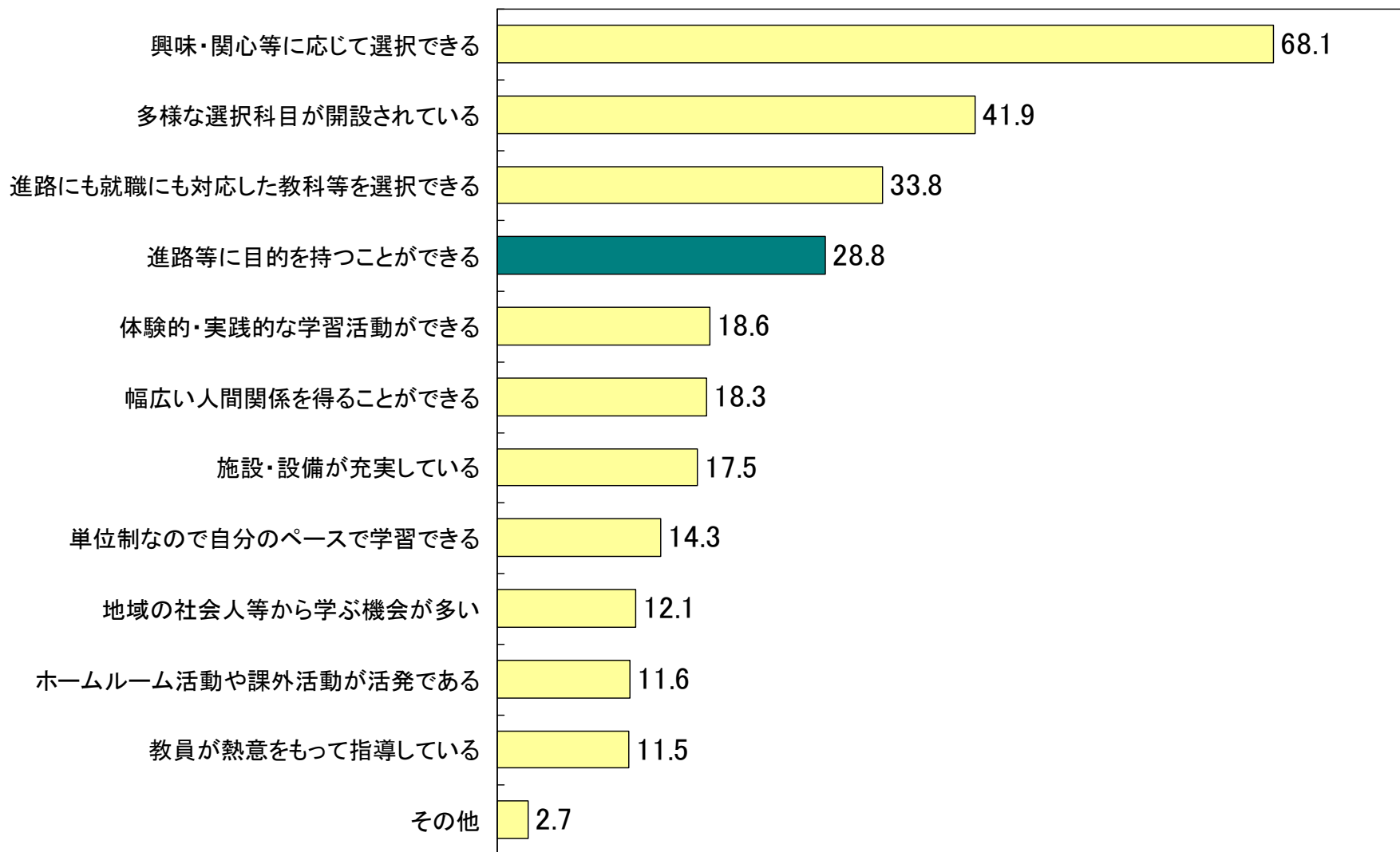
総合学科に在籍する生徒は、総合学科の特色として「自分の進路について学び、じっくり考えることができる」と考えている者が多い(約76%)。



(出典) 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部「総合学科に関する調査」(平成20年3月)

総合学科に満足している点

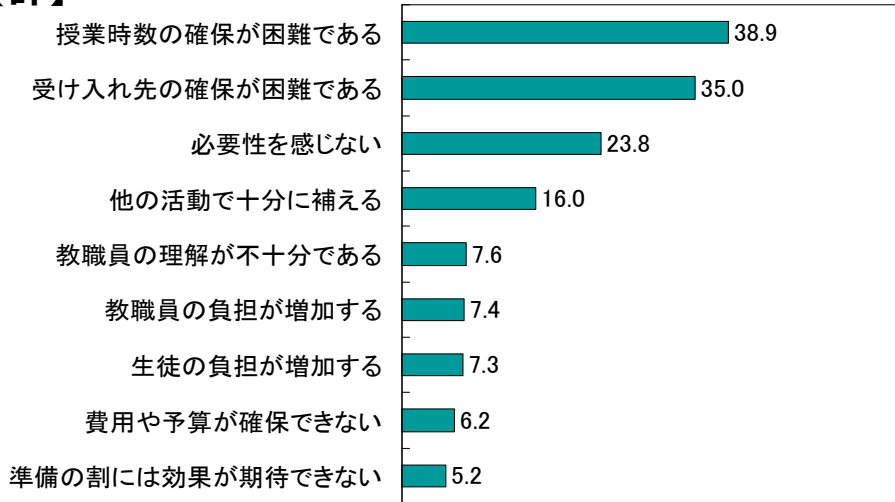
総合学科に在籍する生徒は、総合学科に満足している点として「進路等に目的を持つことができる」ことを挙げる者は少ない(約29%)。



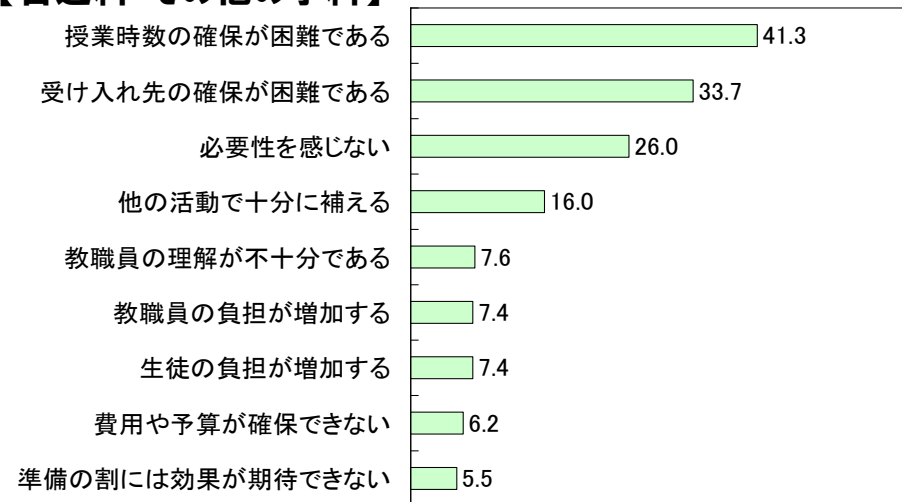
高等学校において就業体験活動を実施しない理由

高等学校において就業体験活動を実施しない理由は、いずれの学科においても、「授業時数の確保が困難」「受入れ先の確保が困難」が「必要性を感じない」「他の活動で補える」を上回っている。

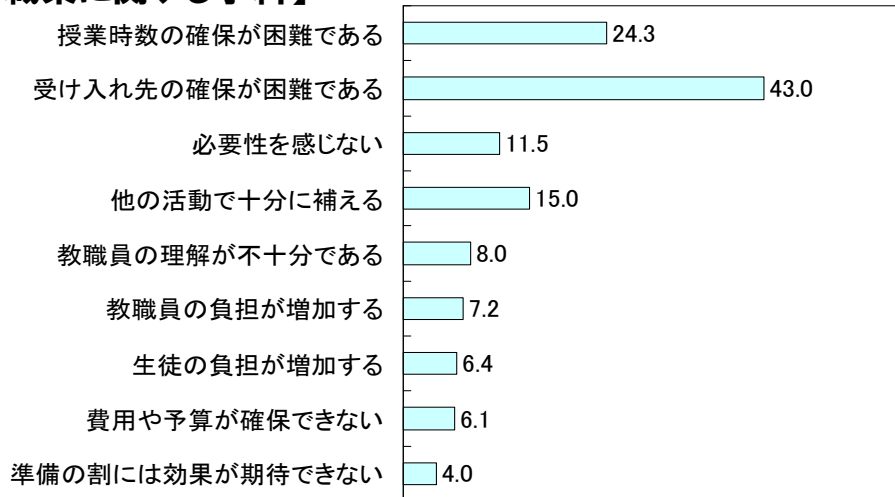
【計】



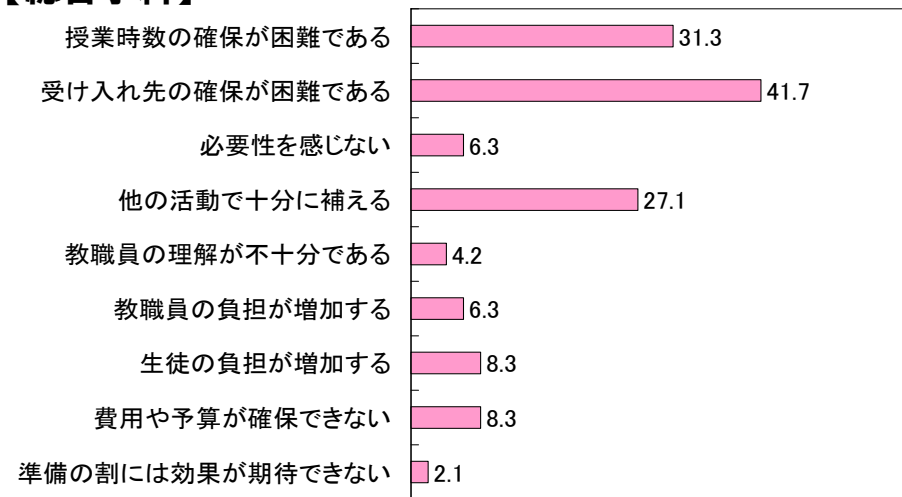
【普通科・その他の学科】



【職業に関する学科】

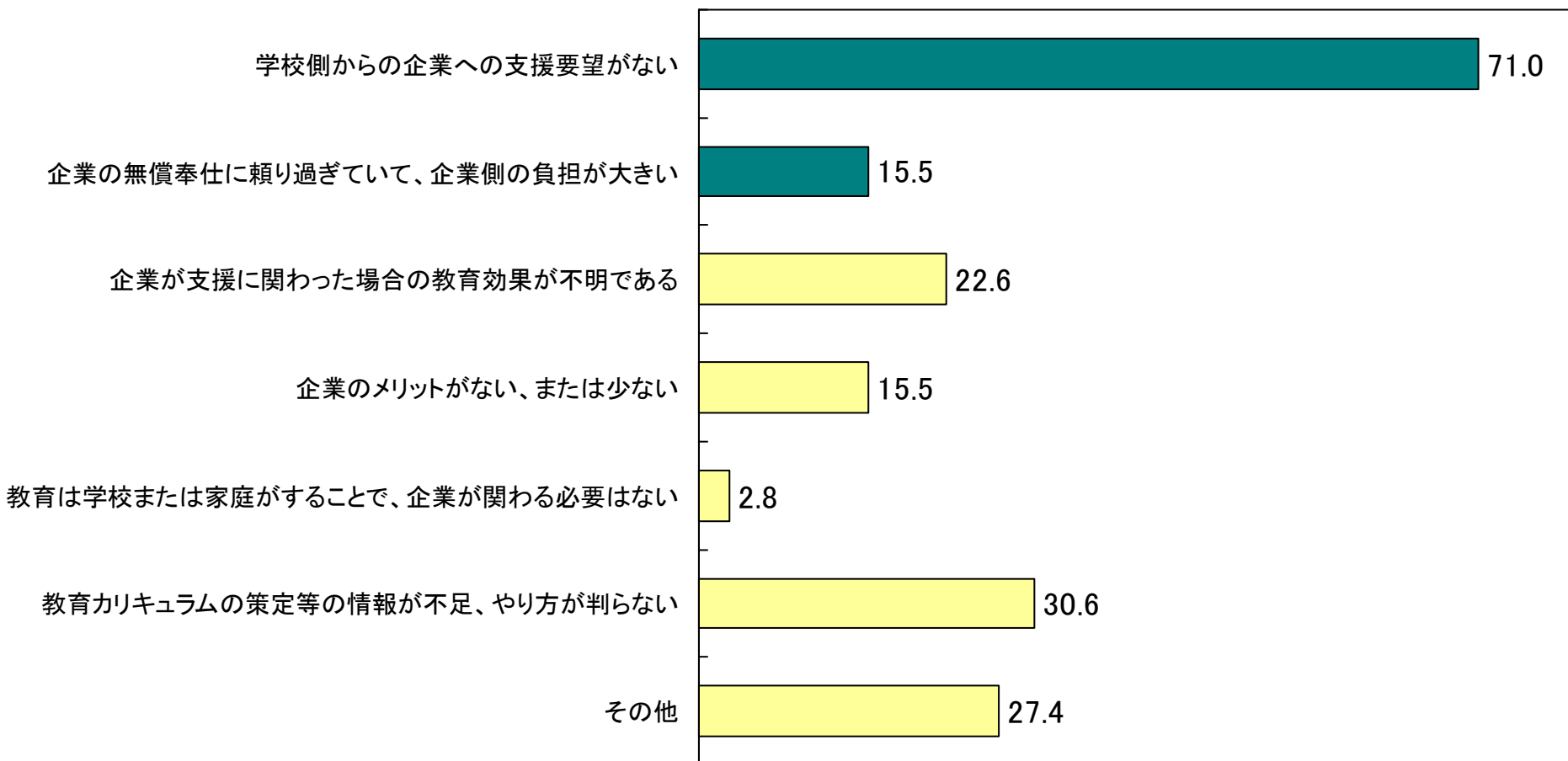


【総合学科】



企業が教育支援活動を行わない理由

企業が教育支援活動を行わない理由として、「企業側の負担が大きい」という回答が約16%であるのに対し、「学校側からの企業への支援要望がない」という回答が約71%と、最も多く挙げられているというデータがある。



(参考) 本資料で引用した主な調査の概要

調査名	実施主体	実施時期	調査対象(※1)	有効回答数(※1)
総合学科、学校設定科目「産業社会と人間」に関する調査	文部科学省	平成21年 11月	総合学科、「産業社会と人間」を設置する 高等学校・教育委員会	学校：347校(※2) 教育委員会：61
高校の進路指導・キャリア教育に関する調査	(株)リクルート	平成20年 10月	全日制高等学校の 進路指導主事	910校
高校生と保護者の進路に関する意識調査	(社)全国高等学校PTA連合会 (株)リクルート	平成19年 10月	高校生・保護者	高校生：1802名 保護者：1541名
総合学科に関する調査	国立教育政策研究所	平成19年 9月	総合学科を設置する 高等学校、在校生	学校：235校 在校生：9238名
中学校・高等学校における進路指導に関する総合的実態調査	(財)日本進路指導協会 ＜文部科学省委託＞	平成17年 2月～3月	高校生・卒業生	高校生：4141名 卒業生：1191名
平成17年度 経済産業省委託調査 進路選択に関する振り返り調査 -大学生を対象として-	Benesse教育研究開発センター ＜経済産業省委託＞	平成17年 1月～2月	大学1年生～4年生	6463名

※1：本資料で引用しているもののみ記載

※2：同一校の複数の課程で置く場合は、課程ごとに計上 29